

# 効果的な産業医研修会実施の ための産業医意識実態調査

主任研究者  
共同研究者

岡山産業保健推進センター所長

岡山産業保健推進センター産業医学相談員

岡山産業保健推進センターメンタルヘルス相談員

岡山産業保健推進センター産業医学相談員

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

石川 紘

岸本 卓巳

中島 誠

道明 道弘

高尾 総司

# はじめに

近年、職場のメンタルヘルス等の新たな課題に対して、現場の産業医は対応を迫られているが、十分なスキルを有していないとの指摘がある。

岡山産保では、「精神医学の」特別な知識やスキルは無くとも、既に備えているべき「労働者の健康管理等を行うのに必要な医学に関する知識（安衛法第13条）」によって対応が可能となる手法について、平成23年4月から「新しい」産業医研修を岡山労災病院などにおいて実施してきた。

# 「新しい」研修とは

「職場は働く場所である」という大原則に立ち返り、直面する問題を「メンタルか否か」ではなく、「業務上の支障があるか否か」に着目し、検討することを促すものである。

たとえば、半日勤務を前提としたような明らかに復職時期尚早なケースに対して、臨床精神医学的な意見に盲目的に従うのではなく、労働契約・就業規則等にもとづき、どのように円滑な復職支援を行うのかといった具体的内容も含めた。

# 前提（半日勤務の是非について）

職場を規定するルールである、労働契約や就業規則に依拠する限りにおいては、「半日勤務」をデフォルトで正当化する法的・社会的根拠はない。したがって、仮にいくら臨床医学的に有用との主治医意見があったとしても、社会的にも社内的にも現時点でのルールでは許容されない以上、新たな制度の運用についてのアライメントを取る作業なしに、産業医学的にこれを「認めてしまう」ことは、望ましくないものとの前提とした。

# 目的

本研究では、岡山県内に勤務する日本医師会認定産業医を対象とし、以下を目的とした。

- ①産業医研修会を受講することが、職場のメンタルヘルス対応への態度に影響しているかどうかを検証する。
- ②「新しい」研修について、受講者と未受講者を比較することで効果評価を行う。

# 対象と方法

岡山産保利用者名簿をもとに、岡山県内の産業医327名を抽出し、調査対象とした。調査票は無記名・自記式で、調査対象者に郵送で配布した。記入済みの調査票は郵送による返送を依頼した。

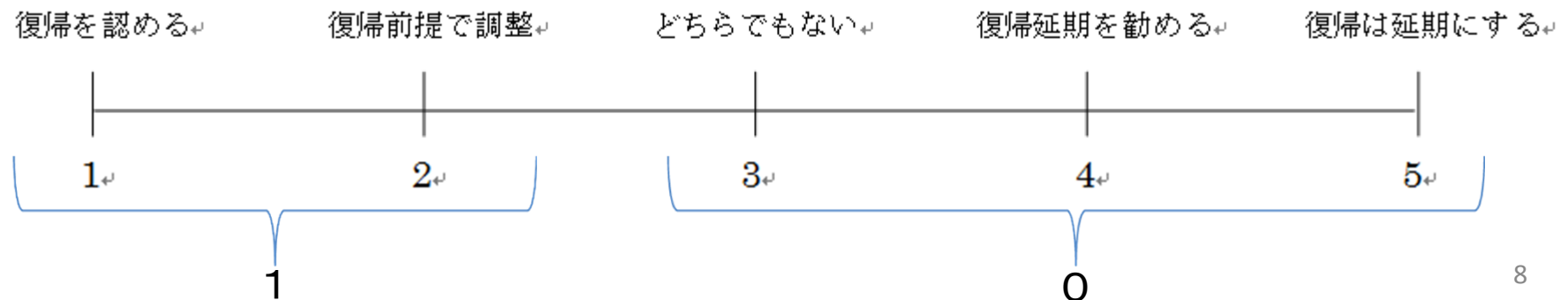
宛先不明の11名を除いた316名に対して、158名の回収が得られ、回収割合は50.0%であった。

# 調査項目

調査項目は、対象者の性別、年齢、診療科、勤務形態に加え、過去2年間における産業医生涯研修会への参加回数およびメンタルヘルス事例への対応の態度（「半日勤務にて復職可能」の診断書への対応）について聴取した。

# メンタルヘルス事例への対応態度

あなたが産業医を務める事業所において、「精神医学」を専門としないあなたから見ても、どう考えても復帰出来そうにない社員が、精神科主治医の「半日勤務にて復職可能」の診断書を提出してきたとします（主治医側には休職期間の満了が近いなど主治医側の事情があるものとしてします）。あなたは、このような事例に対してどのように対応しますか。





# 【記述結果1：属性(n=158)】

性別・年代	
性別	
男性	134名(84.8%)
女性	23名(14.6%)
欠損	1名
年代	
30歳代	16名(10.1%)
40歳代	36名(22.8%)
50歳代	58名(36.7%)
60歳代	25名(15.8%)
70歳代	19名(12.0%)
欠損	4名

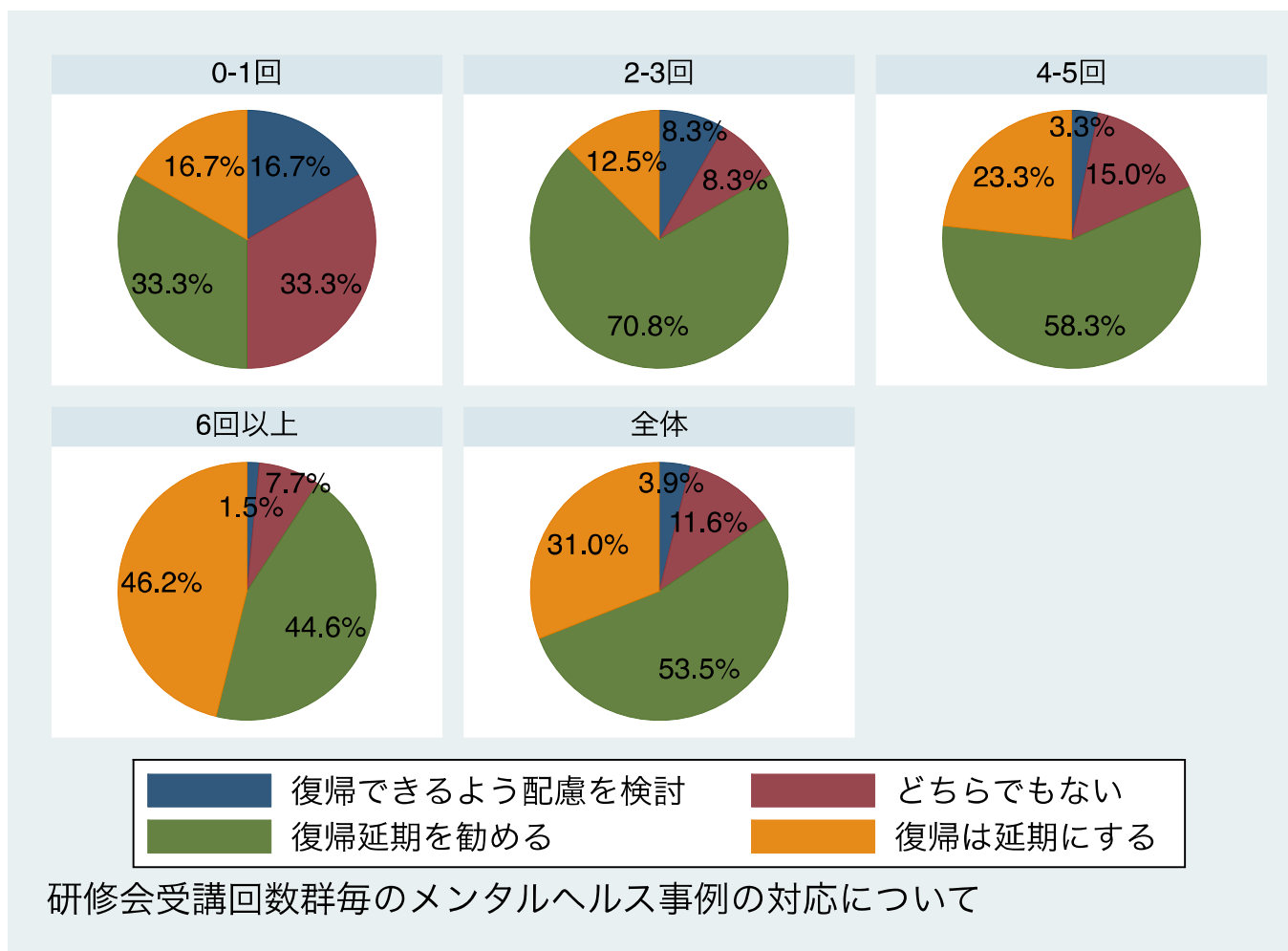
診療科・勤務形態	
診療科	
精神科	11名(7.0%)
それ以外	147名(93.0%)
勤務形態	
開業	51名(10.1%)
勤務	90名(22.8%)
その他	14名(36.7%)
欠損	3名

# 【記述結果1：研修会受講（n=158）】

研修会受講回数等	
産業医生涯研修会参加（過去2年間）	
0-1回	13名（8.2%）
2-3回	48名（30.3%）
4-5回	48名（30.3%）
6回以上	47名（29.7%）
欠損	1名
「新しい」研修会の参加	
あり	76名（48.1%）
なし	82名（51.9%）

産業医としての実務経験	
実際の事業所訪問回数（過去2年間）	
0回	67名（42.4%）
1-5回	23名（14.6%）
6回以上	67名（42.4%）
欠損	1名
実際のメンタル対応回数（過去2年間）	
0回	75名（47.5%）
1-5回	56名（35.4%）
6回以上	27名（17.1%）

# 【研修会受講回数別の結果】

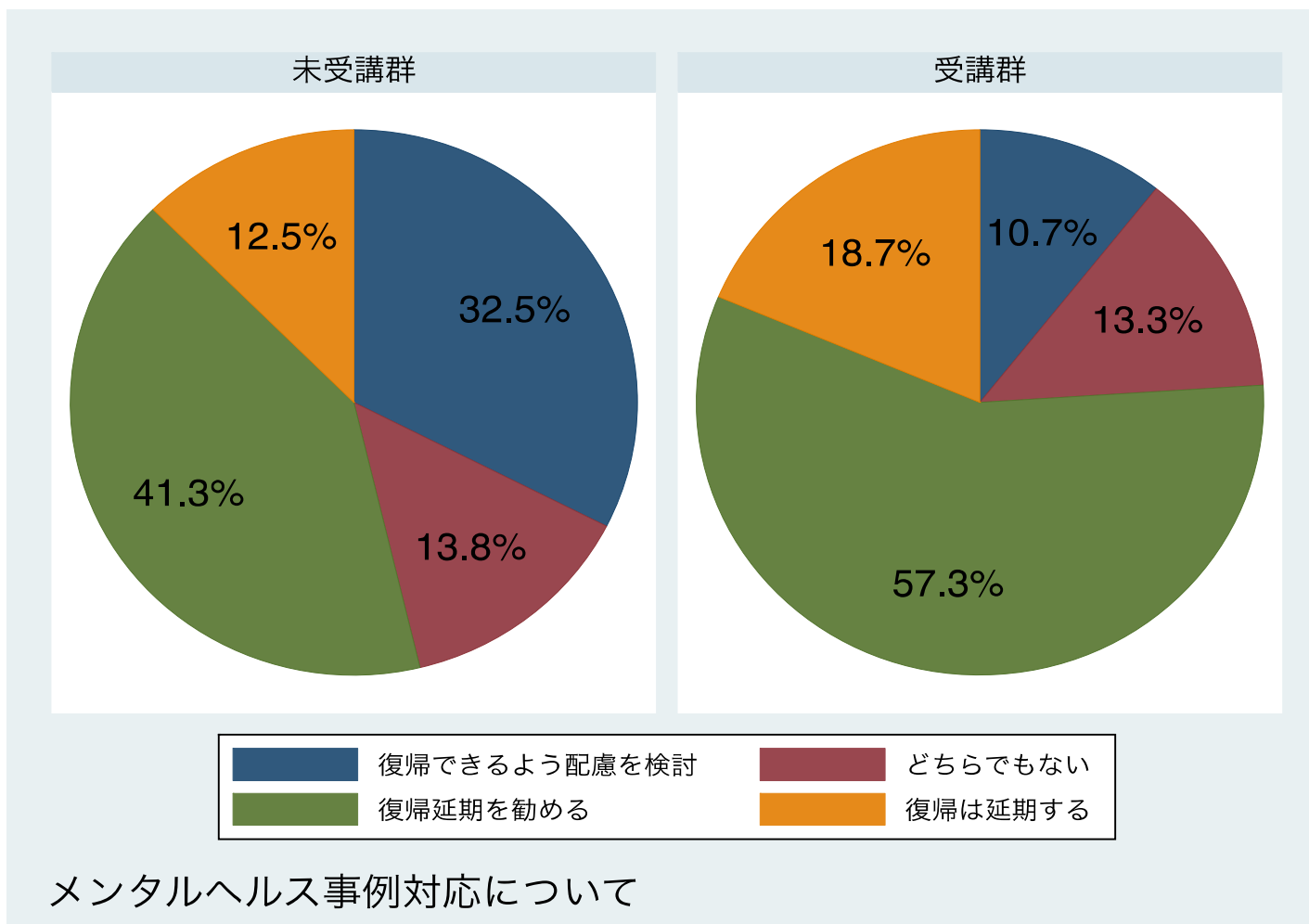


## 【研修会受講回数別の結果の考察】

研修会受講回数別に見ると、受講回数が6回以上の群では、他の群に比べて「復帰延期を勧める」との回答割合が高く、「配慮を検討する」割合が低かった。研修会受講回数が0-1回の群では、「どちらでもない」が50%を占め、態度を決めかねている様子がうかがわれた。

一方で、メンタル対応回数が6回以上の群(26名)では、「配慮を検討する」と回答したものが0名であったことを勘案すれば、経験上、こうした配慮がうまく機能しないことを知っていると考えられた。

# 【新しい研修会受講の効果】



# 多変量解析結果「半日勤務を認める」オッズ比

岡山県内の産業医158名(回収割合50.0%)

	オッズ比(95%信頼区間)
研修会への参加(ref:0-1回)	
2-3回	0.37 (0.76-1.80)
4-5回	<b>0.18 (0.34-0.96)*</b>
6回以上	0.21 (0.37-1.19)
年齢(ref:-49歳)	
50-59歳	2.09 (0.67-6.46)
60歳以上	1.67 (0.51-5.46)
性別 男性	1.79 (0.37-8.72)
診療科 精神科	4.13 (0.62-27.7)
勤務形態 開業	1.30 (0.47-3.61)
岡大研修会への参加 有り	<b>0.34 (0.13-0.88)*</b>

# 結論

研修会参加回数が多い産業医は、「半日勤務可能」に対して、「配慮を認めたり検討したり」しない傾向が認められた。

また、「新しい」研修会に参加している場合は、研修会参加頻度とは独立して、有意に「配慮を認めたり検討したり」しない結果であった。

# 今後の対策

「産業保健の実務に携わっており」「新しい研修会を2回以上受講したことがある」ものを対象とし、実際に産業保健現場で実務を行う機会のある産業医・産業保健スタッフを支援するための事例検討を中心とした「アドバンスコース」として実施する。事例検討を効果的に実施するため、定員は20名とする。

平成25年5月9日、6月13日、7月18日、9月12日、10月10日、11月21日 平成26年1月16日、2月13日、3月20日に、岡山労災病院において実施予定とする。